

## 建設計画に係る平成30年度から平成32年度までの実施事業に関する意見に対する対応調査

塩江地区

地区名	項目番号	項目	事業の内容	担当局	担当課	対応方針
塩江地区	1	新病院附属医療施設整備	塩江分院の整備予定地については、平成29年3月末までに決定するという事になっておりましたが、いまだに方向性が見えておりません。平成28年に地域審議会も5年延長となりましたが、新病院と同時開院は無理としても、地域審議会の最終年度の平成32年度末までには塩江分院が開院できるかを含めて、今後の具体的なスケジュールの説明を求めます。	病院局	新病院整備課	最有力候補地として用地交渉を行っていた塩江新温泉ホテル跡地の取得を断念し、新たな整備場所の選定を行いました。平成28年度中の確定には至りませんでした。 平成29年度の早い時期に整備地を確定させ、できる限り早い時期の開院を目指します。 なお、今後の具体的なスケジュールにつきましては、整備地の確定後に速やかにお示ししたいと考えております。
塩江地区	2	栂川ダム整備事業	栂川ダムも本体工事に入り、平成32年度9月完成の見込みとなっておりますが、土質等の問題もあり、予定通りとはいかない状況です。だからこそ余計に多くの方達に親しまれ喜ばれるダムになってほしいと思います。そのためには行政も住民も十分に考えていただき、よりよい施設の整備をして利用できれば観光にも役立つと思います。	都市整備局	河港課	栂川ダム整備事業につきましては、御指摘のとおり、現在、付替県道の地すべり対策を含め、ダム本体工事を実施しており、平成32年の完成を目途に、事業主体である県とともに、鋭意、事業推進に努めているところでございます。 また、栂川ダム周辺整備につきましては、今後、香川県・高松市・地元関係者で構成する検討委員会を設置することとしており、この委員会の中で、県とともに、観光関連を含め地域の方々の御意見を踏まえ、整備する施設の検討を進めていくとともに、補助金や合併特例債などの財源確保に努め、魅力ある栂川ダム周辺整備を推進してまいりたいと存じます。
塩江地区	3	交通網の整備	交通網について、空港の利用と鉄道の導入も考えてみれば、近い将来人口減少にも歯止めがかかるのではないかと思います。	市民政策局	交通政策課	本市では、平成26年度に策定した「地域公共交通網形成計画」に基づき、主要鉄道駅からの支線となるフィーダー交通の充実を図るとともに、現行バス路線の再編に取り組んでいるところでございます。 高松空港周辺地域における鉄道等の導入につきましては、多額な事業費や投資に見合う交通需要の確保見通しなど、大きな課題がございますことから、今後、バス路線の再編など、公共交通ネットワークの再構築に取り組む中で、地域の特性や利用者ニーズに即した、持続可能な公共交通の在り方について検討を進めてまいりたいと存じます。
塩江地区	4	塩江温泉郷の観光振興	塩江温泉郷観光活性化基本構想に基づき、活性化施策の推進体制と実行体制の組織化をどうするか。又、推進スケジュールについても具体的に説明を求めます。	創造都市推進局	観光交流課	塩江温泉郷観光活性化基本構想にもありますとおり、活性化施策推進のためには、塩江温泉郷内の観光関連事業者、地域住民及び塩江外の関係者の協働が不可欠となりますことから、本市といたしましては、塩江温泉観光協会・塩江温泉旅館飲食協同組合を始めとする各団体、事業者、地域の皆様から御意見を伺いながら、実行力のある組織体制のあり方、及び推進スケジュールについて、検討を進めてまいりたいと存じます。 なお、今年度につきましては、同基本構想に掲げるソフト施策のアイデアのうち、情報発信に関して「観光協会のホームページの充実」や、サービス向上策に関して「宿泊施設等の外国人対応力向上に資する取組」に着手する予定でございます。
塩江地区	5	塩江温泉郷観光活性化基本構想	奥の湯温泉の存続を求めて平成28年12月に署名3,300人分を市長に提出しましたが、平成29年2月27日で閉館となりました。その後、平成29年3月に塩江温泉郷観光活性化基本構想が策定されました。市観光関連施設のあり方整理の中で、「奥の湯エリア」の特性を踏まえた整備内容を検討しますとなっております。策定時にはすでに奥の湯が閉館しており、奥の湯が存在しないにも関わらず奥の湯の名称を使用している理由をお聞きしたい。又、奥の湯という知名度が薄らぐ前に、奥の湯温泉に代わる何らかの施設を早急に検討していただくとともに、具体的な案を示していただきたい。	創造都市推進局	観光交流課	塩江地域でございます本市の観光関連施設のうち、奥の湯温泉及び自然休養村センターについては、施設の老朽化のため昨年度末をもって閉館いたしました。塩江地域全体の魅力向上のためには、個々の民間観光施設とは別に、集客の中核となる「場」が必要であるという認識のもと、塩江温泉郷観光活性化基本構想において、地域全体に波及する「集客の補充」を行うための施設の再整備を検討することとしております。 奥の湯エリアにつきましては、同基本構想にもあるとおり、「わざわざ訪れる価値」を持ち、「ここでしかできない体験」のできるエリアとする方針であり、そのためのハード再整備等について、引き続き、他都市の事例等も踏まえ、検討を進めてまいりたいと存じます。 なお、同基本構想において使用しております「奥の湯」の名称についてでございますが、現在も民間施設で御利用いただいております温泉水の源泉の名称から、「奥の湯エリア」との表現を用いているものでございます。